



テレマティクス自動車保険でつくる安全・安心なクルマ社会



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 自動車保険部 テレマティクス開発グループ長 **うめだ まさる 梅田 傑**

1. はじめに

通信技術の発達により、あらゆるものがインターネットでつながる「IoT (Internet of Things) 社会」が現実となっている。クルマや家の使用状況、人の健康状態、天候情報などの様々なデータを活用した新たなビジネスやサービスが生まれている。

クルマの分野においては、クルマと双方向の通信でつながって様々な情報やサービスを提供する仕組みとして「テレマティクスサービス」が展開されている。

このテレマティクスの技術を活用した自動車保険が「テレマティクス自動車保険」である。速度やアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などのクルマから取得する「車両運行データ」と、保険会社が保有する「事故データ」を組み合わせることで、安全運転の促進や事故時のきめ細かなサポートなど、様々なサービスを提供する。

従来の保険は、事故が起きた後に安心をお届けする「事故の後の保険」であった。これに対して、テレマティクス自動車保険は、安全運転を促進して事故を未然に防ぐ「事故を起こさないための保険」となることを目指している。

あいおいニッセイ同和損保では、テレマティクス自動車保険を推進することで「安全・安心なクルマ社会」の実現に貢献したいと考えている。

2. テレマティクス自動車保険の普及と当社のこれまでの取り組み

テレマティクス自動車保険は、欧米を中心に普及が進んでおり、お客さま一人ひとりの運転技術に見合った保険料設定や、車両盗難への対策、事故の際の自動通報など、様々な商品・サービスが実現している。

日本でも、中央省庁においてテレマティクス技術を活用した自動車保険を通じての事故低減がテーマとして掲げられ、自動車メーカー・IT企業・保険会社などによる技術開発競争が活発化している。

当社は、日本におけるテレマティクス自動車保険のフロントランナーであり、2004年4月にはトヨタ自動車株式会社(以下、トヨタ)のテレマティクス技術を活用して、毎月1km単位で実際に走った分だけ保険料を支払う「実走行距離連動型

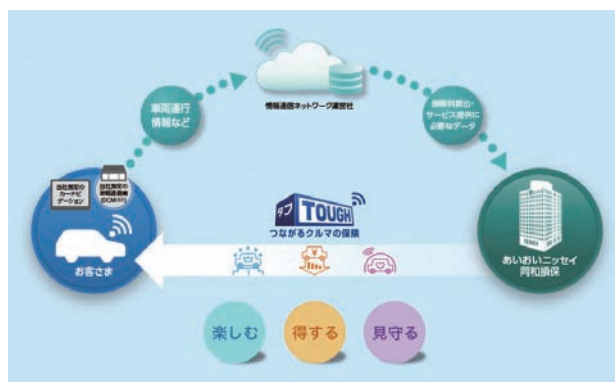
自動車保険 PAYD (ペイド)」を発売している。2015年3月には、英国のテレマティクス保険会社の大手であるBIG社 (Box Innovation Group Limited) を買収してノウハウを吸収するなど、最新のテレマティクス自動車保険及びサービスの研究・開発を行ってきた。

3. 日本初の運転挙動反映型テレマティクス自動車保険「タフ・つながるクルマの保険」

このような背景を踏まえ、2018年4月には、トヨタのコネクティッドカーを対象として、安全運転の度合いを保険料に反映させた日本初のテレマティクス自動車保険である「タフ・つながるクルマの保険」を発売した。

トヨタのコネクティッドカーは、車載通信機DCM (Data Communication Module) を通して走行距離や運転特性などの車両運行データを自動的に送信できる機能を持っており、こうして取得した車両運行データを活用することで、本商品は実現した。

本商品では、「楽しむ」「得する」「見守る」の3つのコンセプトに基づいた商品・サービスを提供することで、加入された全てのお客さまが安全運転に取り組み、事故を起こさなくなることを目指している。



■図1. 「タフ・つながるクルマの保険」のしくみ

4. 特長①「楽しむ」

最初に「楽しむ」について説明する。本商品では、加入された全てのお客さまに、楽しみながら安全運転に取り組んでいただくことを心掛けている。



■図2. お客様に提供する安全運転のためのレポート

これまで、ドライバーの安全運転の度合いを評価する明確な指標はあまり存在しなかったが、本商品では、トヨタが持つ「車両運行データ」と当社が持つ「事故データ」を突合したビッグデータ解析に基づき、安全運転の度合いを百点満点で評価する「安全運転スコア」として提供している。自分の運転技術がスコアとして見える化されることで、エンターテインメント性があり、運転に自信がある人からも、運転初心者の人からも好評を得ている。

1回の運転ごとに提供する「ドライブレポート」では、ドライバーが実際に走行したルートと危険な運転をした箇所を地図上に明示するので、自分では気付かなかった運転のリスクを知ることができる。

毎月の車両運行データを集約した「マンスリーレポート」では、お客さま一人ひとりの運転特性に合った具体的な改善アドバイスを提供するので、本商品に加入した全てのお客さまが安全運転になって事故を起こさなくなるとともに、スコアがUPして保険料の割引を受けられるようサポートする。

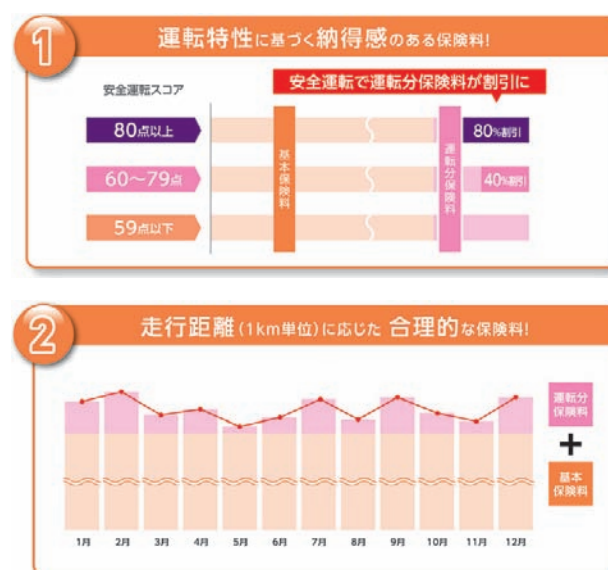
また、走る楽しさや喜びを体感するエンターテインメントサービスとして、安全運転スコアによる『全国ランキング』や同車種・同年代・同都道府県でのランキングについてもお知らせする。さらには、スコアやランキングに応じて目標をクリアしたお客さまに景品をプレゼントする『安全運転キャンペーン』も実施している。長距離ドライブの機会が多い夏休みやお正月休みは、事故が起きやすい時期でもある。

このようなタイミングでキャンペーンを実施することで、安全運転を促し、事故を未然に防ぐお手伝いをしたいと考えている。

5. 特長②「得する」

次に「得する」についてご説明する。

本商品の保険料は、毎月定額の「基本保険料」と、毎月の走行距離と安全運転スコアに応じて変動する「運転分保



■図3. 保険料のしくみ



険料」の2つで構成されている。運転分保険料は、安全運転スコアに応じて最大で80%割引かれる。

毎月の運転の状況に応じて保険料が割引かれる仕組みとすることで、お客さまは安全運転に取り組めばお得になることを毎月実感でき、保険期間を通して常に安全運転を意識するようになることを期待している。このため、「マンスリーレポート」では、安全運転スコアとアドバイスだけでなく、実際に何%の保険料割引が適用され、保険料がいくらくお得になったのかも明示している。

また、お客さまに自ら安全運転に取り組んでもらうためには、安全運転スコアの基準が、分かりやすく、納得感のあるものであることが重要である。そこで、基準策定に当たっては数百kmに及ぶ実車テストを行い、ドライバーの感覚とスコアにズレがないよう心掛けた。パンフレットでも高得点となる安全運転のポイントや減点される危険運転のポイントを分かりやすく図示している。

6. 特長③「見守る」

テレマティクス自動車保険では、万が一の事故の際にも従来の自動車保険にはないキメ細かなサポートが可能である。それが「見守る」だ。

これまで保険会社は、お客さまが事故を起こされても、連絡がなければ事故が起こったことを把握できず、お客さまをサポートすることができなかった。

本商品では、テレマティクス技術により車両運行データが常時送信されるため、車両から事故と想定されるような大きな衝撃を感知した場合に、保険会社からお客さまに電話(アウトバウンドコール)を行うことができる。これにより、事故で不安になっているお客さまに対して、レッカー車の手配や救急車の出動依頼、レンタカーの手配など、タイムリーで能動的なサポートをすることが可能である。



■図4. 事故対応

7. おわりに

「テレマティクス自動車保険」の推進により、当社は安全・安心なクルマ社会の実現に取り組んでいる。「タフ・つながるクルマの保険」は、「安全運転のインセンティブ(割引)」と「安全・安心のサービス」を提供することで、お客さまと保険会社が協力して交通事故を未然に防いでいくというコンセプトが高く評価され、「2018年度 グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)」を受賞した。



■図5. グッドデザイン賞ロゴ

現在、自動車業界では「CASE」と呼ばれる新たな技術・サービスの動向に注目が集まっている。

「Connected」、「Autonomous」、「Shared Service」、「Electric」の各頭文字を集めた造語だが、自動車の技術革新や顧客志向の変化に伴う新たなモビリティサービスが隆起しつつある。

当社は、テレマティクス自動車保険を通して獲得した車両運行データを収集・分析するインフラやノウハウ、ビッグデータ分析による事故を起こさないためのアルゴリズム等を活用することにより、これらの新たな技術やモビリティサービスのための商品・サービスにも取り組んでいく。

全てのお客さまに、安全・安心で利便性の高い移動サービスを提供することに貢献していく。